

縄文時代の土器
(約10,000年前)



縄文時代の土器
(約6,000年前)



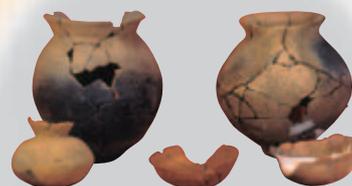
縄文時代の土器
(約4,500年前)



縄文時代の土器
(約2,500年前)



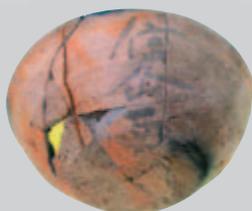
弥生時代の土器



古墳時代の土器



古墳時代の土器



文字が書かれている
平安時代の土器



平安時代の土器



奈良時代の土器

福島市の遺跡

Sites of Fukushima city 2

はじめに

福島市内には1000カ所を超える遺跡があり、およそ2万年前の旧石器時代から江戸時代までの人々が生活をした痕跡を今に伝えています。

福島市では、これまで60カ所以上の遺跡の発掘調査を行い、旧石器時代、縄文時代、弥生時代、古墳時代、奈良時代、平安時代、鎌倉時代、室町時代、江戸時代の人々の生活の様子や社会の様子の一部が明らかになっています。

遺跡はどこにあるのでしょうか？じつは、私たちが普段とおっている道のすぐそばに遺跡はあります。身近なところに、私たちの生活の土台となった先人が残した生活の跡が埋まっているのです。

福島市でも、社会の教科書に書かれている時代に、私たちの祖先が、私たちが生活している近くで、生活をしていたのです。

この本は、これまで発掘調査を実施した遺跡の中から、先人の暮らしがよくわかる遺跡を選び、発掘調査で明らかになった先人の生活の様子を伝えることを目的に作成しました。

昨年度は、中央地区、北信地区、東部地区、清水地区、渡利地区、杉妻地区、蓬萊地区の遺跡を紹介しましたが、今回は、信陵地区、西地区、飯坂地区、茂庭地区、吾妻地区での発掘調査で明らかになった遺跡を紹介します。

いつの時代に、どのように先人が生活していたのか知っていただき、学校での調べ学習で活用していただきたいと思います。

目次

発掘調査とは	1	地蔵原遺跡	13
市内の移り変わり	2	羽根通A遺跡	14
摺上川ダムに沈んだ遺跡	3	上岡遺跡	15
富山遺跡	8	西原廃寺跡	16
月崎A遺跡	9	岸 窯 跡	17
大平・後関遺跡	10	大鳥城跡	18
愛宕原遺跡	11	用語説明	20
西B・C遺跡	12	年 表	22

発掘調査とは

現在、日本に残る古い建築物は、7世紀の法隆寺金堂が最古のものです。それ以前の建物は木や植物で作られていたため、腐ってしまい残っていません。

福島市では、約2万年前から人間が生活をしていました。どんな家に住み、どんな生活をしていたかを知る手がかりが発掘調査なのです。

発掘調査では、当時の家の跡や柱を立てた穴、井戸、食料をたくわえた穴、墓などの様子や土器や石器などの道具から、昔の人々がどのように生活していたのかを知ることができます。

発掘調査の様子

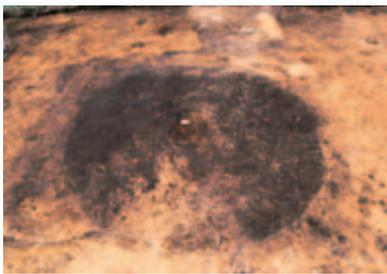


発掘調査では家の跡などのほかに、当時使われていた土器などもみつきり、生活の様子を知ることができます。



発掘調査では地面を平らに削って、当時の地面をていねいに調べることから始まります。

たてあなじゅうきよ 竪穴住居の調査の様子



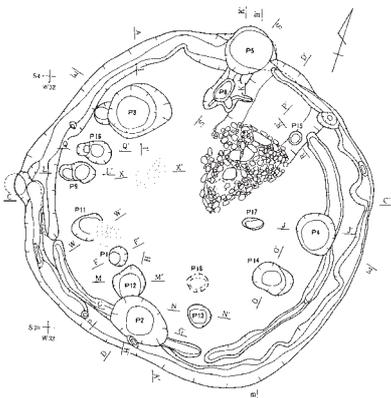
竪穴住居を発見した様子です。中央の黒い円が竪穴住居です。



竪穴住居を掘っている様子です。へらで少しずつ掘っていきます。



竪穴住居を掘りあげた様子です。柱の穴の大きさや深さを確認したり、当時のいろりなどを調べます。



◀ 竪穴住居の図面

右上の写真まで調査が進んだ段階で、写真を撮影し、図面を作成します。左の図は右上の竪穴住居の図面です。竪穴住居の形や大きさ、柱の位置と大きさ、いろりなどを図にします。

市内の移り変わり

福島市でみつまっている最も古い時代の生活の跡あとは、今からおよそ2万～1万5千年前に石器を作った場所（黒岩・学壇遺跡がくだん）で旧石器時代のものです。

やがて縄文時代が始まると、人々は堅穴住居たてあなじゆうきよを作って住むようになります。市内で最も古い堅穴住居（松川町・仙台内前遺跡せんたいうちまえ）は縄文時代が始まってまもなくつくられたもので、およそ1万年前のものと考えられます。その後、次第に家の数がふえてむらをつくるようになり、縄文時代もなかばをすぎると、川の近くに大規模なむらがつくられるようになります（飯坂町・月崎A遺跡つきざき、松川町水原・宇輪台遺跡うわだい、荒井・愛宕原遺跡あたごはら、飯野町・和台遺跡わだいなど）。岡島の宮畑遺跡みやはたにむらげできたのもこの頃です。

弥生時代のむらはみつかっていないため、詳しくわかっていませんが、勾玉や矢じりまがたまを作っていた場所や水田跡（野田町・勝口前畑遺跡かつくちまえはた）のほか、お墓の跡（佐原・大平後関遺跡おおいらいごせき）などがみついています。これらのことから、稲作をしながら、川そばの低地にむらをつくっていたことがわかります。

古墳時代になると下鳥渡地区に古墳がつくられ、福島は古墳をつくった豪族ごうぞくによって支配されていました。古墳時代の終わり頃には特に、盆地の東側斜面に小さな古墳がたくさんつくられるようになります。

また、古墳時代の終わりには有力豪族により、お寺が建てられました（腰浜町・腰浜廢寺跡こしはまはいじ）。

奈良時代から平安時代にかけては福島は国家の支配下にありました。信夫郡の郡役所しのぶぐんぐんやくも置かれていたようです（北五老内町・北五老内遺跡きたごろうち）。

古代の終わりに飯坂町の大鳥城おおとりじょうを拠点きょてんに強い力を持っていた佐藤氏は、鎌倉幕府さとうの勢力によってその力を失い、以後、伊達氏だてしの支配の中に取り込まれていきます。この期間には杉目城すぎのめじょう（福島城ふくしまじょう）や大森城おおもりじょうをはじめとして大小さまざまな城館じょうかんがつけられました。

江戸時代には福島城を中心とした支配体制しはいたいせいができあがりますが、福島の統治とうちは幕府領—福島藩ふくしまはん（本多氏ほんだ）—幕府領—福島藩（堀田氏ほった）—幕府領とめまぐるしく変わったのち、18世紀になって板倉氏いたくらの支配下になります。

摺上川ダムに沈んだ遺跡

■所在地……福島市飯坂町茂庭

■時代……縄文時代・平安時代・中世

■調査年……平成3～15年

詳しくは

ふくしまの歴史1 原始・古代
P 52～59に掲載

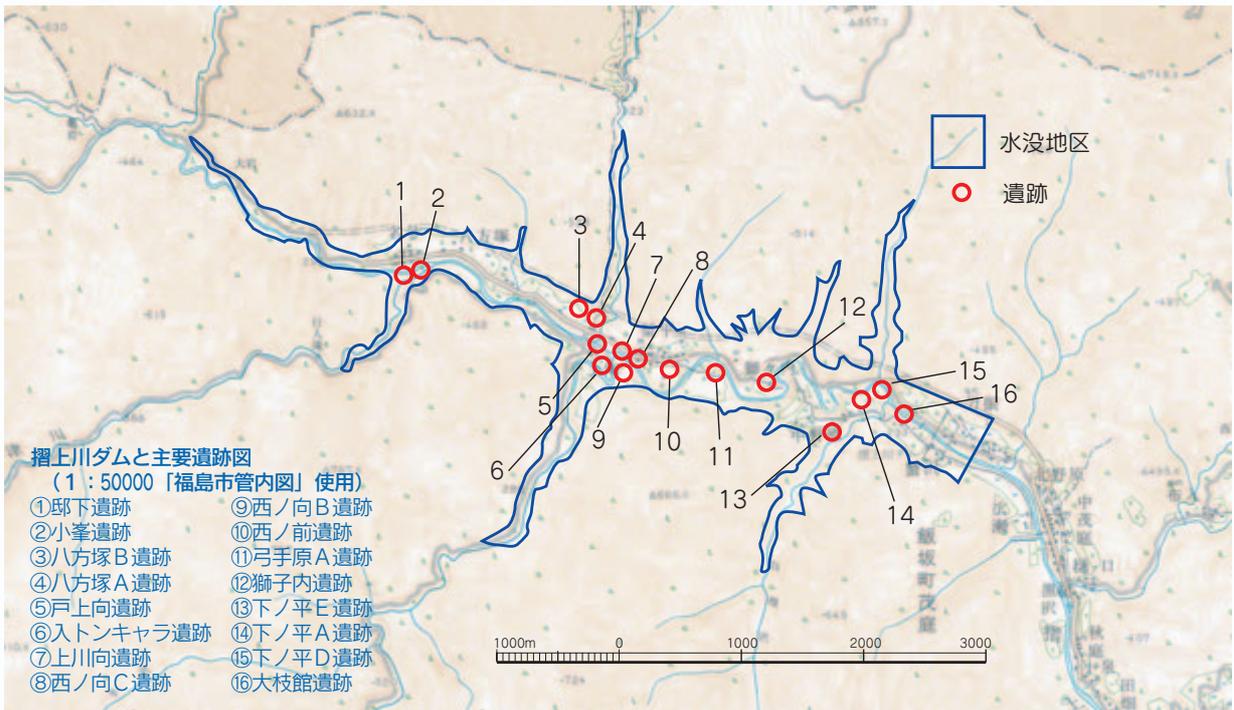


すりかみがわ
摺上川ダムは福島市の北のはずれにある飯坂町茂庭^{もにわ}に建設された^{たもくてき}多目的ダムです。

ダムの建設にもなっ^て行われた、水没する範囲の発掘調査は13年間にもおよ^び、およそ27ヘクタールの遺跡が調査されました。遺跡の多くは縄文時代のむらの跡で、特に縄文時代の前期^{ぜんき}の初め頃と中期^{ちゅうき}の終わり頃にたくさん^の人が住んでいたことがわかりました。ここではその遺跡の中から、茂庭地区を代表する遺跡についていくつか紹介します。



▲空から見た茂庭地区
山あいにある茂庭地区では、摺上川の両岸に広がる狭い平地が主な生活の場でした。



獅子内遺跡

■時代……縄文時代（前期～後期）

獅子内遺跡は、摺上川が大きくカーブするところにある、とても広い遺跡です。縄文時代前期には茂庭地区で最大のむらがつくられていました。段丘の縁などに長さ4m、幅3mほどの長方形の竪穴住居が何軒かまとまっだんきゅう ふちてつくられ、大きさや形が似ていることから、むらの人々の結びつきがとても強かったと考えられます。

また、獅子内遺跡から摺上川を下った場所にある下ノ平D遺跡や、川をのぼった場所にある西ノ前遺跡・上川向遺跡・西ノ向D遺跡でも、同じ頃のむらの跡がみつかり、約6,000年前頃、茂庭地区にはたくさんの方が住んでいたことがわかりました。



▲獅子内遺跡でみつかった縄文人のむら
四角にくぼんだ所がすべて竪穴住居。全部で100軒を超える竪穴住居が見つかりました。（福島県文化財センター白河館〈まほろん〉提供）



▲6,000年前の竪穴住居の跡
地面を四角に掘りこんで、中央に柱を立てただけの住居。炉はなく簡単な作りです。長さ約4m。



▲下ノ平D遺跡
下ノ平D遺跡は獅子内遺跡よりも小さいむらです。時期的にも獅子内遺跡よりも少し後にできたむらなので、獅子内遺跡から分かれたむらかもしれません

下ノ平E遺跡

■時代……縄文時代（前期）

下ノ平E遺跡は、摺上川からはなれた小高い丘の斜面にあります。発掘調査では、縄文時代の前期に掘られた、けものをつかまえるための落とし穴が400個ほどみつかり、落とし穴は、丘の頂上からふもとまで、びっしりと重なり合った状態でみつかり、同じところに何度もくり返し掘られたことがわかります。また中

には一列に並んでいる落とし穴もあります。

落とし穴の形は長方形をはじめ、非常に長い長方形のもの、溝のように細いもの、円形のものなどがあり、深さも1 mから2 mを超えるものまでさまざまです。ここは、縄文人にとって、狩りをするのにとってもよい場所だったので、長い間使われ続けたものと思われます。

また、西ノ向D遺跡でも落とし穴が100個ほどみついています。



▲下ノ平E遺跡全景

山の傾斜面にたくさんの落とし穴が掘られています。黒くみえる穴はすべて落とし穴で、たくさんの落とし穴が重なり合っている様子がよく分かります。



▲縄文時代の落とし穴に落ちたタヌキ

調査中に掘り上げた落とし穴の中にタヌキが落ちました。穴から出られなくなったタヌキは穴のすみのほうにうずくまっていた。



▲みつかった落とし穴

深さは1メートル以上で、大人の人でもいちど中に入ると、なかなか外に出てこれません。動物を確実につかまえるために底に杭を立てていたあとがあります。

ゆみ て はら エー い せき
弓 手 原 A 遺 跡

■時 代……縄文時代中期～後期・平安時代

弓手原A遺跡は、摺上川の右岸にある遺跡で、縄文時代中期から後期にかけてのむらがみついています。むらは広く平らな場所ではなく、摺上川の岸边付近につくられていました。とくに縄文時代の後期のなかば頃には、このあたりにいちばん大きなむらがあったようです。



▲空から見た弓手原A遺跡
写真の右側に見えるのが摺上川です。川よりの部分にむらがつくられていました。(福島県文化財センター白河館〈まほろん〉提供)



▲縄文時代後期の竪穴住居の跡
直径3.5mの円形の住居で、中央には石で囲った炉がつくられています。手前の穴が二つならんでいるところが入口です。(福島県文化財センター白河館〈まほろん〉提供)

また、茂庭地区では数少ない平安時代のむらの跡も見つかっています。むらは6軒からなる小さなものですが、付近からは平安時代のものと考えられる作りかけの木の**お椀**なども見つかっています。平安時代には木製の**椀**や**皿**を作る木工などの職人が住むむらだったようです。



▲弓手原A遺跡でみつけた木の器
弓手原A遺跡では、平安時代に木製の椀や皿が作られていました。発掘調査では、ロクロで挽く前の、荒く形を整えた未完成の品が発見されています。(福島県文化財センター白河館〈まほろん〉蔵)

やしき した い せき
邸 下 遺 跡

■時 代……縄文時代中期～晩期

邸下遺跡は、茂庭地区でも一番上流でみつかった遺跡で、それより上流では今のところ遺跡はみつかりません。それほど広くない土地に縄文時代中期から晩期まで



▲邸下遺跡でみつかった11号竪穴住居の跡
直径7mほどの円形の住居跡で、深さは70cm以上ありました。石を列べて作った炉の直径は1m50cmほどです。



▲邸下遺跡でみつかった敷石住居跡
住居の床に平らな石を敷き詰めた住居跡です。関東地方で広く取り入れられた住居の形で、福島では縄文時代後期のはじめ頃にみられます。

小さなむらが連続して営まれていることが特徴です。中期の複式炉を持つ竪穴住居や後期の敷石住居もみつっていますが、縄文時代後期の終わり頃につくられた11号竪穴住居は直径が7 mもあり、茂庭地区で最大の大きさです。

また、遺跡のなかに100個を超える穴が密集して掘り込まれていました。穴は直径が1 mほどで、石や土器と一緒にわざと埋められていました。これらの穴は落とし穴と違って何のために掘られたものかはわかりませんが、むらが営まれていた間、ずっと掘り続けられていたようです。



▲邸下遺跡でみつかった穴
直径1 mほどの大きさですが、中にはたくさんの石が入られていました。

こ や たて あと 小屋館跡

■時代……中世

茂庭地区では大枝館跡と小屋館跡の2カ所の館跡を調査しました。どちらも三方を急な崖に囲まれた高台の上であり、茂庭に居を定めた伊達家の家臣である茂庭氏の居城と伝えられていますが、大枝館跡では建物の跡などはみつきませんでした。

小屋館跡は土塁と堀で区切られた細長い敷地から、門の跡や6棟の建物跡などがみついています。その反面、生活の様子を表す日常的な道具などはみつかっていないため、伊達氏が親子で争い、福島市付近にも動乱のおよんだ「天文の乱」の時期に軍事目的で作られた館跡である可能性が考えられます。



▲小屋館跡

川から50mほどの高さでそり立つ断崖の上にあります。三方が断崖で、入り口には土塁・空堀があるので、堅固な守りを意識していると考えられます。
(福島県文化財センター白河館〈まほろん〉提供)



▲小屋館跡建物推定図

発掘調査で発見された建物跡から、小屋館の建物跡の配置を推定。(『摺上川ダム遺跡発掘調査報告Ⅳ』より)
(福島県文化財センター白河館〈まほろん〉提供)

富山遺跡

■遺跡名……富山遺跡

■所在地……福島市町庭坂字富山

■時代……縄文時代

■調査年……平成7年

詳しくは

ふくしまの歴史1 原始・古代
P 24・25掲載



庭坂小学校の北西約2km、吾妻山地のふもとの東側に張り出す丘陵の頂上（標高約300m）にあった遺跡です。現在は住宅地になっています。発掘調査では64軒もの^{たて}竪穴住居が発見され、ここに縄文時代の早期（約1万～6,000年前）のむらがあったことがわかりました。あまり広くない場所から、すきまもないほど竪穴住居が密集して



▲むらのようす
浅い凹みが竪穴住居の跡です。同じ場所に何度もくりかえし住居がつけられていたことがわかりました。



▲小さく簡単なつくりの家
長さ・幅は3mくらいで、畳4～5枚分くらいの広さの小さな家です。柱や屋根も簡単なつくりの家だったと考えられます。

みつかりました。同じ場所で住居を何度もつくりかえたため、同時に存在した住居は数軒程度と考えられ、小さなむらだったようです。竪穴住居は、長さ・幅が3mほどと小さく、何軒かの床には火をたいた跡が残っていました。ここは、現在の集落からは離れた場所にありますが、縄文人には、動物を狩ったり、木の実を採集するのに便利で、生活しやすい場所だったと考えられます。



▲土器が見つかったようす
丸い穴の中から、縄文土器がつぶれた状態でみつかりました。



▲復元された縄文土器
富山遺跡でみつかった縄文土器です。黒い^{すす}煤がついていて煮たきに使われたことがわかります。土器の上の部分には、貝がらでつけられた文様がついています。

月崎A遺跡

■遺跡名……月崎A遺跡

■所在地……福島市飯坂町中野字月崎

■時代……縄文時代～中世

■調査年……昭和42・51・63年
平成元年～7年

詳しくは

ふくしまの歴史1 原始・古代
P 32に掲載



月崎A遺跡は、福島市の飯坂町に所在します。遺跡の南側を小川が流れ、北側は摺^{おがわ}上川^{すり}が流れています。その間の緩やかな斜面に月崎遺跡は広がっています。

古くから縄文土器が採取できる場所として知られていたところで、昭和42・51年に発掘調査が行われ、縄文時代中期のむらの跡がみつかりました。その後、土地^{とちくかく}区画^{かく}整^{せい}理^り事業^{じぎょう}に伴^{ともな}って昭和63年から平成7年まで継続して発掘調査を行いました。月崎A遺跡は、縄文時代中期の初めから終りにかけての、およそ1,000年間にわたって、小川のほとりに大きなむらがつくられていたことがわかっています。縄文時代後期になると、むらはしだいに小さくなりますが、晩期まではむらが続いたようです。また、平安時代のむらの跡もみつかっています。



◀南側上空から見た月崎A遺跡

手前（南側）に見えるのが小川で、右側の道路が飯坂街道です。写真手前の住宅地になっているところが月崎A遺跡です。



▲複式炉をもつ竪穴住居

縄文時代の竪穴住居の跡です。家の中に石で囲ったところが複式炉と呼ばれる囲炉裏のあとです。



▲ヒスイで作られた大珠

ヒスイは新潟県から運ばれてきたものです。非常にかたいヒスイをていねいにみがいてつくられています。

大平・後関遺跡

■遺跡名……大平・後関遺跡

■所在地……福島市佐原字後関地内

■時代……縄文時代・弥生時代

■調査年……平成5・8・15・18～20年

詳しくは

ふくしまの歴史1 原始・古代
P 47・69に掲載



佐原小学校から北東方向へ、約1kmの距離にある遺跡です。遺跡は鍛冶屋川に沿った低い丘の広い範囲に広がっています。畑で作業中に古い土器が出ることは佐原地区に住む人たちには古くから知られており、今でも、畑では縄文土器や石器をたくさんみつけることができます。

これまで、6回の発掘調査が行われました。たくさんの縄文土器、石鏃などの石器がみつき、また、たてあなじゅうきよ堅穴住居や木の

実をたくわえておくための深い穴などもみつかりました。このことから、縄文時代中期ちゅう(約4,500年前)から縄文時代晩期ばんき(約2,300年前)までの長い期間、ここに縄文時代のむらがあったことがわかりました。縄文人は、この丘の上を移動しながら住み続けていたとみられ、縄文時代の終わり頃(後期～晩期頃)には、鍛冶屋川により近い場所にむらを移して住んでいたようです。また、下の写真のように、つぼの形をした弥生土器がせまい場所からたくさんみつかりました。これは弥生時代のお墓はかと考えられています。弥生時代になってもここに人が住み続けていたことがわかりました。



▲西側上空から見た大平・後関遺跡

これは、平成19年に行われた5次調査の時の航空写真です。上の方に小さく見えるのが信夫山で、中央に細長く見えるところが発掘調査の現場です。



▲みつかった縄文土器

縄文時代中期(約4,500年前)の縄文土器です。



▲たくさんの壺がみつかった様子

弥生時代のお墓と考えられています。

愛宕原遺跡

■遺跡名……愛宕原遺跡

■所在地……福島市荒井字愛宕原

■時代……縄文時代・平安時代

■調査年……昭和63年

詳しくは

ふくしまの歴史1 原始・古代
P 34・36・41・56に掲載



荒井小学校から南西方向に直線距離で約2km、陸上自衛隊福島駐屯地の南側にある縄文時代の遺跡です。駐屯地の南側をとおっている道路の改良工事に伴って発掘調査が行われました。南北幅10m、東西の長さ約500mにわたって調査しました。調査した区域の中央から西側へ約60mほどの区域で、縄文時代の^{たてあなじゅうきょ}堅穴住居が13軒見つかりました。円形の形をしていて、床には柱を立てた穴と石でつくった炉がありました。住居の大きさは、直径4～5mほどですが、9mにおよぶ大きな住居もありました。堅穴住居が見つかった区域の東側では、木の実などをたくわえておくための深い穴が多く見つかりました。この場所は、^{こんごうざん}金剛山のふもとのゆるやかな斜面につくられた、縄文時代中期（約4,000～4,500年前）のむらの跡であったことがわかりました。道路の周囲の畑の下には、まだ数多くの堅穴住居が埋もれています。



▲空から見た愛宕原遺跡
西側上空から見た発掘調査の現場です。



▲まとめてみつかった堅穴住居



▲愛宕原遺跡最大の堅穴住居
直径8mの大きな堅穴住居跡です。中央に石で作った囲炉裏があります。複式炉と言われています。



▲壁に埋められた石棒
長さ57cm、重さ7.2kgの大きな石棒は、住居の壁にささった状態で見つかりました。

西B・C遺跡

■遺跡名……西B・C遺跡

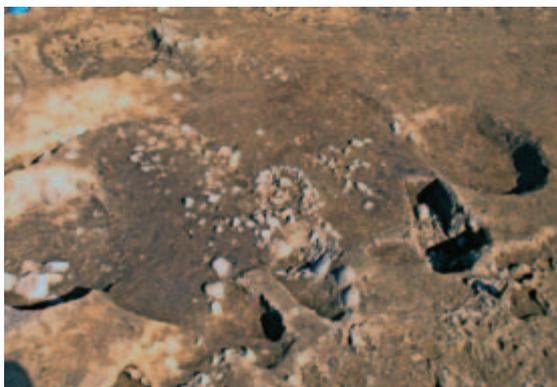
■所在地……福島市土船字西

■時代……縄文時代

■調査年……平成9年



水保小学校の南西約500m、フルーツラインと鍛冶屋川が交差する地点にある縄文時代の遺跡です。現在、遺跡は畑になっていて、鍛冶屋川が遺跡のすぐそばを流れています。道路の改良工事にともない行われた発掘調査では、6軒の竪穴住居がみつかりました。竪穴住居の床には、複式炉と呼ぶ石組みの炉がつくられていました。6軒とも同じ時代の竪穴住居と考えられますが、重なり合うものもあることから6軒が同時に存在していたわけではなかったようです。竪穴住居のほかに、木の実などをたくわえていたと思われる深い穴や、小さな子どものお墓と考えられる埋甕もみつかり、この場所が、縄文時代中期の終わり頃（約4,000年前）のむらの跡であることがわかりました。また、鍛冶屋川沿いの地域には、この遺跡の他にも縄文時代の遺跡が数多く存在しています。



◆みつかった竪穴住居の跡

みつかった6軒の竪穴住居は複式炉を持っていました。どれも直径4～5mほどの円形の住居と考えられます。



▲埋甕

西B・C遺跡では、竪穴住居跡のすぐそばから埋甕がみつかりました。どの埋甕も、土器をまっすぐ立てて埋めています。



▲貯蔵穴

家と家の間には、直径・深さともに1mほどの深い大きな穴がいくつも掘られていました。ひろってきた木の実はいったんこの穴にたくわえられたと考えられます。

じぞうはらいせき 地蔵原遺跡

■遺跡名……地蔵原遺跡

■時代……縄文時代

■所在地……福島市荒井字仲沢地内

■調査年……平成12年



荒井小学校から南西方向へ約2kmの距離にある縄文時代の遺跡です。遺跡は、東西に細長く広がっているものと推定され、福島県消防学校のあたりが、遺跡の東端と考えられています。そして、ここから西へ約2km程行った福島県畜産試験場周辺が西端と考えられています。福島県消防学校の改築にともなって、遺跡の東端のあたり



▲空から見た地蔵原遺跡
東側上空から見た発掘調査区の近景です。
正面の山並みが土湯の方向です。

を発掘調査しました。堅穴住居・子どものお墓と考えられる埋甕・動物を捕るために掘られた落とし穴などがみつき、縄文時代の後期頃（約4,000年前）のむらの跡であることがわかりました。みつかった堅穴住居は、丸い形をしていて、床の中央には、石を四角形に組んでつくられた炉（石囲炉）がありました。発掘調査では、堅穴住居は1軒しかみつからなかったことから、このあたりがむらのはじにあたると思われる、むらの中心はもっと西のほうにあると予想されます。



▲みつかった堅穴住居の跡
縄文時代の堅穴住居跡です。中央に見える石で囲ったところが囲炉裏の跡（石囲炉）です。



▲みつかった落とし穴状土抗
動物を捕った細長い形の落とし穴です。

羽根通 A 遺跡

■遺跡名……羽根通 A 遺跡

■時代……縄文時代・平安時代

■所在地……福島市大笹生字森・家内神

■調査年……平成12年



大笹生小学校から北東方向へ約1.5kmの距離にある縄文時代の遺跡で、頂上に塩釜神社がある羽根山のふもとの南向きのゆるやかな斜面一帯に広がっています。遺跡のすぐ南側には八反田川が流れています。発掘調査では、縄文土器や石器が数多くみつかりました。そして、埋甕と、深く掘られた円形の穴が多くみつかりました。円形の穴には、柱を立てていたと思われるものがありました。埋甕と円形の穴は、調査した場所の東端と西端に集中してみつかりました。埋甕は子どものお墓と考えられることから、この場所は縄文時代晩期頃（約3,000年前）の墓地であったと考えられます。発掘調査では、竪穴住居がみつからなかったことから、この墓地はむらのはじにつくられたものと思われ、むらの中心は墓地から西側の斜面にあるものと考えられます。



▲空から見た羽根通 A 遺跡

遺跡は羽根山と八反田川に挟まれた、小高い場所にあります。羽根山の山裾から少し離れた部分の調査を行いました。向かって左側の細い部分から埋甕が多くみつかりました。



▲穴に入れられた土器

大型の土器が横になおれた状態でみつかりました。



▲柱を立てた穴

埋甕がまとまってみつかった場所の一部。埋甕のすぐ脇に大きな穴がありました。中央のくぼみが柱を立てた跡。



▲重なりあう埋甕

埋甕は2～3個が重なった状態でもみつかりました。右側の埋甕をこわして、新たに別の甕を埋めていたようです。

上岡遺跡

■遺跡名……上岡遺跡

■所在地……福島市飯坂町東湯野字上岡

■時代……縄文時代

■調査年……昭和27年・56年・63年

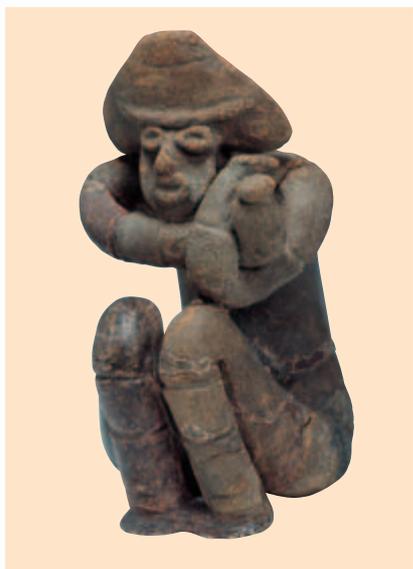
詳しくは

ふくしまの歴史1 原始・古代
P 78に掲載



上岡遺跡は、東湯野小学校のすぐ北側にある、縄文時代後期から晩期にかけての遺跡です。この遺跡から発見された、うずくまる土偶がきっかけとなって、昭和27年に最初の発掘調査が行われました。

その後、昭和56年行われた発掘調査では、縄文時代後期～晩期の土器などとともに、平らな地形のところからは堅穴住居が、窪地の部分からは縄文時代晩期と考えられる木を組み合わせた施設がみついています。また、その窪地のまわりからは、漆塗りの土器や小型の土器、たくさんの土偶など、さまざまな縄文人の道具がみついています。



◀ うずくまる土偶

左手でほおづえをつき、腕を組んでうずくまる珍しい形をした土偶。高さ21cm。福島県指定重要文化財。

▶ 木組遺構

窪地の底からみつかった井桁に組んだ木組みで、三段ほどの石組みをとまなうものです。木の実などの水さらし場である可能性が考えられます。このまわりからは小型の土器や土偶などがたくさんみつかりました。



◀ 遮光器土偶

上岡遺跡からは足の部分しかみつかっていませんが、中が空洞になっています。県内では上岡遺跡のほか、岡島の宮畑遺跡、南相馬市の浦尻貝塚などでしかみつかっていません。



▶ 漆塗りの土器

上岡遺跡からみつかった土器の中からは、漆塗りの土器のかげらもみついています。細かい文様の彫り込まれた土器の表面に、赤色や黒色の漆が塗られており、非常に芸術性の高いものになっています。

西原廃寺跡

■遺跡名……西原廃寺跡

■所在地……福島市飯坂町湯野字西原前

■時代……平安時代

■調査年……昭和46年・平成10年

詳しくは

ふくしまの歴史1 原始・古代
P 167・232・286に掲載



湯野小学校から北東方向へ約900mの距離にある、平安時代に建てられた寺院の跡です。平安時代に書かれた「類聚国史」という書物には、「平安時代の初め頃の830年に山階寺（奈良の興福寺）の僧であった智興が信夫郡に寺院を建てた」という記事があり、西原廃寺がこの寺院ではないかと考えられています。昭和46年に最初の発掘



▲現在の西原廃寺跡
昭和47年に福島県の史跡に指定され、現在史跡公園となっています。

調査が行われました。大きな礎石が並んでみつき、発掘した場所に13m×9m、9m×7mの大きさの二つの建物が建っていたことがわかりました。また古い瓦もみつかったことから、この場所に平安時代に寺院が建っていたことが確かめられたのです。西原廃寺跡は、土地の所有者や地域の人たちの理解と協力により保存されることになり、福島県指定史跡となり、昭和47年に史跡公園として整備されました。現在は、みつかった建物跡の礎石が復元されています。平成10年の発掘調査では平安時代の竪穴住居もみつかっており、西原廃寺の周辺にはむらもつくられていたと考えられます。



▲発掘調査のようす
平成10年に行った2次調査の調査風景です。
西原廃寺跡の西端部を調査しました。



▲文様のついた軒丸瓦
西原廃寺跡から、みつかった瓦です。

きしかまあと 岸窯跡

■遺跡名……岸窯跡

■所在地……福島市飯坂町中野字岸、
田中、御荷越

■時代……江戸時代

■調査年……昭和63年・平成2・3・9年



岸窯跡は、飯坂小学校の南西約300m、^{たてのやま}館ノ山の南側の斜面にあります。飯坂トンネルの工事中に発見されました。発掘調査では^{かまあと}窯跡はみつかりませんでした。焼^やき損じたものを捨てたところがみつき、
^{すりばち わん さら こうろ とっくり すいちゆう}播鉢・碗・皿・香炉・徳利・水柱など多量のやきものが発見されました。

ここで焼かれたやきものには、当時、やきものの名産地だった、愛知県、岐阜県、佐賀県のやきものの技術がとり入れられていました。岸窯のやきものは福島県中通りの全域を中心に、北は岩手県まで、西は山形県山形市まで広く使われていたようです。

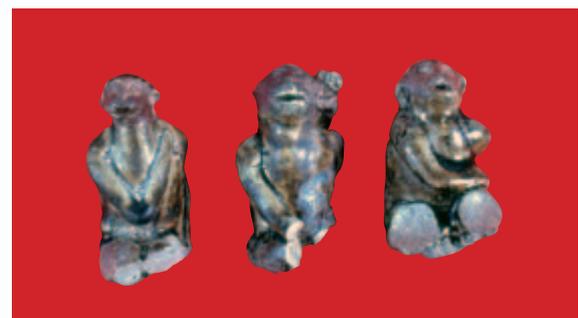
発掘でみつかった^{つぼ きざ}壺に刻まれた年号などから、ここでは江戸時代の初め頃にやきものを始めたと考えられます。



▲江戸時代の年号が刻まれたやきもの
^{しょうほう}正保という文字が刻まれた壺です。正保とは西暦1644～1648年の江戸時代の年号です。



▲捨てられたやきもの
^{ものばら}物原と呼ばれる捨て場からは、このように多量のやきものかけらが出土しました。



▲3匹の猿
猿の形をした小さな水差しです。大きさは約7.5～8cmです。

大鳥城跡

■遺跡名……大鳥城跡

■所在地……福島市飯坂町字館ノ山

■時代……平安時代、鎌倉～室町時代、江戸時代

■調査年……平成4・6・19年

詳しくは

ふくしまの歴史2 中世 P 6・96・250に掲載

大鳥城跡は、飯坂小学校から100mほど南の館ノ山にあります。

現在は館ノ山公園として、市民のいこいの場となっています。最近の発掘調査で、この山には、鎌倉時代～室町時代に城があったことに加えて、平安時代や江戸時代にも、いろいろな歴史があったことがわかってきました。

平安時代

館ノ山公園の北側の登り口あたりの発掘調査では、須恵器をつくっていた工房跡と、須恵器を焼いた窯跡がみつき、館ノ山が佐藤氏の居城となる前の平安時代には、このあたりが須恵器をつくる作業所だったことがわかりました。ここでつくられた須恵器は、福島市内のむらで広く使われていたようです。



▲大鳥城跡（館ノ山）

館ノ山を北東側の上空から眺めたところです。手前右側の緑色の給水タンクのまわりと、左側の沢の部分で発掘調査が行われ、須恵器の工房跡や窯跡がみつかりました。



▲須恵器工房跡のようす

ロクロを使って須恵器を作っていたと思われる工房跡では、須恵器の材料となる粘土や、焼き上げたばかりでまだ使っていない須恵器がたくさんみつかりました。



▲みつかった須恵器窯跡

須恵器窯は2基みつかりました。沢の傾斜面を利用して作られた登り窯で、斜面を掘りくぼめ、その上に粘土をドーム状に覆い、天井が作られていたようです。



▲窯で焼かれた須恵器

須恵器は密閉された窯の中で高い温度で焼き上がるため、青灰色に堅く焼きまします。大鳥城跡の須恵器窯では、杯、甕、鉢、長頸瓶などが焼かれました。みつかった須恵器は失敗作のため、ゆがんだり、オレンジ色に生焼けであったりします。

鎌倉・室町時代

大鳥城跡は、平安時代の終りころ、源義経につきそった佐藤継信・忠信兄弟で有名な佐藤氏が住んでいたという伝承が残されていることで有名です。頂上部分の発掘調査により、大鳥城は鎌倉時代の終りころから室町時代に使われていた城であったことがわかりました。南北朝時代に活躍した、佐藤氏の子孫である佐藤清親の居城ではないかとみられています。



▲大鳥城跡頂上平場

掘立柱建物跡や、鍛冶炉の跡・鋳物をつくった跡などが確認され、また地元で造られた甕などの陶器や、中国から輸入された高価な陶磁器などが多数見つかりました。ふつう、山の上につくられた城は戦の時のみ使われ、日常生活は麓の屋敷で営まれるのですが、大鳥城跡は、この頂上の平場に屋敷を構え、日常生活を送っていたことがわかりました。



▲頂上平場でみつけた土木工事の跡

斜めに見えるのが、南北朝時代に使われた部分を埋めた土です。佐藤氏が去った後の戦国時代ころに、新たな領主により行われた土木工事の跡と思われます。



▲大鳥城跡矢庫の跡

頂上平場の西側には、「矢庫の跡」と呼ばれる場所があり、現在でも周りを直線的に囲む高い土塁を観察することができます。調査では、人が生活していた跡はあまりみつかっていないため、名前のとおり倉庫として使われた場所だったのかもしれませんが。



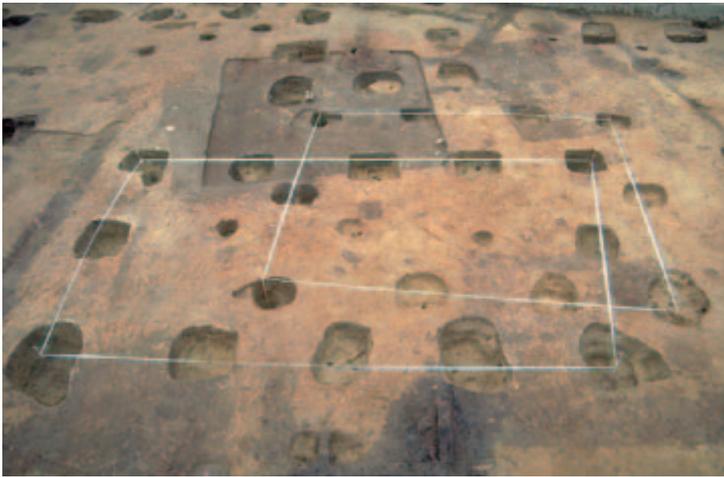
▲鎌倉時代～室町時代のやきもの

中国から輸入されたやきもののです。特に右はじのやきものは高価なもので、大鳥城に住んでいた人物の力の強さを示しています。

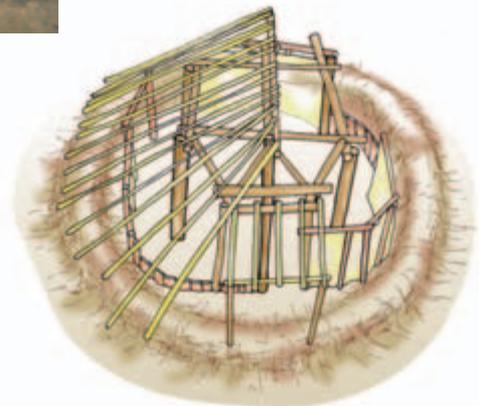
用語説明

- 縄文時代** …… 今から約12,000年～2,300年前まで、約1万年間続いた時代です。竪穴住居に住み、狩りや木の実の採集を中心とした生活をしていました。この時代から、土器が使われ始めました。
- 竪穴住居** …… 縄文時代～平安時代の一般的な住居です。円形や四角形に地面を掘りくぼめて柱を立て、その上に草ぶきの屋根をかけてつくった住居で、床が地面より低くなっています。
- 掘立柱建物** …… 現代の建物と同じく、柱を四角にめぐらせて建てた建物ですが、柱を立てる場所に穴を掘って、穴の中に柱を埋めていました。おもに、倉庫や役所、身分の高い人の住まいなどに使われました。
- 館** …… 鎌倉時代～安土桃山時代に、武士などその土地の有力な人物が住んでいた屋敷です。屋敷の周囲には、堀や土塁がめぐらされました。
- 縄文土器** …… 縄文時代に使われた土器で、土器の表面に縄目の文様がついていることから、この名称がつけられました。おもに、火にかけて食料の煮たきの時に使われました。
- 弥生土器** …… 弥生時代に使われた土器で、日本で最初に発見された場所が、東京都の本郷弥生町であったことから、この地名をとって名称がつけられました。煮たきに使われたほか、貯蔵にも使われました。
- 土師器** …… 古墳時代から平安時代にかけて使われた土器です。たき火程度の温度で焼かれました。おもに日常の生活で使われ、茶碗の形をした杯、鍋のかわりに煮たきに使われた甕などがあります。
- 須恵器** …… 古墳時代のはじめに、朝鮮半島から製作技術が伝えられた土器です。ロクロを使用して作られ、窯で焼かれました。高い温度で焼くため、青みがかかった色になり、土師器とくらべて、とてもかたく焼きあがります。
- 再葬墓** …… 弥生時代のはじめから中頃まで行われた、死者の埋葬の方法で、遺体を一度埋葬した後、骨だけになったときに掘り出し、骨を土器に入れてふたたび埋葬しました。
- 埋甕** …… 縄文時代に行われた、死者の埋葬の方法で、小さな子供のお墓と考えられています。子供が亡くなったときは、縄文土器の甕の中に遺体を納め埋葬しました。
- 落とし穴状土坑** …… 動物を落として捕るための穴。形は円形や楕円形などですが、落ちた動物が簡単にのぼれないように、深く掘られ、穴の下の幅がせまくなっています。
- 複式炉** …… 縄文時代の中期の終わり頃（約4,000～4,300年前）に東北地方南部を中心に流行した、土器と石を組み合わせた大型の囲炉裏で、石組みのところで煮たきをし、となりに埋めた土器の中に置き火を入れていたものと考えられています。
- 石囲炉** …… 縄文時代の囲炉裏で、炉の周りを石で囲ってつくられました。形は円形や方形・長方形の形をしています。

- ちよ 貯 蔵 穴 …… トチの実やクルミ・ドングリなどをたくわえておくために掘られた円形の深い穴です。横から見た形が、理科の実験で使うフラスコのように、入り口がせまく底の方が広がっているものがあります。
- そ 礎 石 …… お寺などの建物の土台として、柱を支えた石。
- せき 石 棒 …… 石をみがいて棒のようなかたち加工したもの。長さや太さはいろいろですが、大きいものでは長さが1 mを超えるものもあります。日常使われたものではなく、信仰にかかわるまつりに使われたものと考えられています。
- せき 石 鏃 …… 弓矢の矢の先につけた石の矢じり。大きさはさまざまですが、黒曜石など、割れ口がガラスのように鋭い石を選んでつくられています。金属のなかった縄文時代には、石の矢じりが使われ続けました。
- ど 土 偶 …… 粘土を焼きあげてつくった、人間や動物のかたちをした人形。人間のかたちをしているものは、そのほとんどが女性をモデルにしています。こわれた状態でみつかることが多く、「生」や「死」にかかわるまつりに使われたとも考えられています。
- たい 大 珠 …… かたいヒスイをていねいにみがいて作った玉。縄文時代によくつくられました。お墓にそなえられたり、宗教的なまつりに使われたと考えられます。月崎遺跡でみつかっています。
- ちよう 長 頸 瓶 …… 口縁がアサガオの花のように開き、花びんのような形をした須恵器。



掘立柱建物跡



竪穴住居

全国の主な出来事と福島市内の遺跡年表

全国の主な出来事

福島市内の遺跡年表

氷河期が終わる		旧石器時代	学壇遺跡
土器、弓矢の使用 竪穴住居の出現	10000年	縄文時代	仙台内前遺跡 月崎遺跡 和台遺跡 宮畑遺跡 上岡遺跡
稲作・金属器の使用が始まる 各地に小さな国ができる	300年 紀元前 紀元後	弥生時代	大平・後関遺跡 青柳遺跡 勝口前畑遺跡
大和国家の統一が進む 古墳が作られる 法隆寺が作られる 大化の改新	300年	古墳時代	鎧塚遺跡 月ノ輪山1号墳 腰浜廃寺
奈良に都が移される 荘園ができ始める	710年	奈良時代	台畑遺跡
京都に都が移される 藤原道長が摂政になる 平氏が滅びる	794年	平安時代	西原廃寺跡 岩崎町遺跡
源頼朝が征夷大將軍となる 元寇（文永の役、弘安の役）	1192年	鎌倉時代	大鳥城跡
足利尊氏が征夷大將軍となる	1338年	室町時代	
豊臣秀吉が全国を統一する 関が原の戦い		戦国時代	鎌田館跡
徳川家康が征夷大將軍になる	1600年	江戸時代	福島城跡 岸窯跡
明治維新	1868年	明治時代	
	1912年	大正時代	
	1926年	昭和時代	
	1989年	平成時代	

福島市の遺跡 2

発行者 福島市教育委員会
発行日 平成21年3月